

写

五條市学校適正化に関する
中間答申

平成 27 年 2 月 19 日

五條市学校適正化検討委員会

平成 26 年度 五條市学校適正化検討委員会の中間答申

1. 審議の経過

本検討委員会は、5月30日に第1回を開催して以来、これまで4回の部会（第1回 部会（6月20日）、第2回 部会（8月27日）、第3回 部会（11月10日）、第4回 部会（平成27年1月19日））と視察（宇治市視察（8月7日）、小中一貫教育全国サミット in 姫路への参加（10月30日、31日））を重ね、第2回 五條市学校適正化検討委員会を10月6日に実施した。そして本日、第3回の五條市学校適正化検討委員会（平成27年2月19日）に到ってきた。これまでの審議の経過概略は以下の通りである。なお部会での審議経過の詳細は、部会のまとめに記載されている。

○5月30日の第1回会議では、平成25年度「五條市小中学校の今後の在り方に関する懇話会」提言から「五條市学校適正化検討委員会」の発足理由について確認した後、平成26年度の五條市の学力学習状況調査の結果報告などを通じて、自尊感情といじめの問題、学力の問題、規範意識の問題などについて、理解を深めた。そして、現状の課題への対応と今後五條市の子どもたちに求められる力の育成やその教育環境を考えるために、教育内容検討を行う部会と学校規模・配置適正化検討を行う2つの部会を設置し、検討を始めることが承認された。なお現在の教育状況や今後の教育に向けて、保護者の声を十分に受けとめる必要があるという趣旨から、保護者対象のアンケートを実施することが承認され、何をどのように尋ねるかについて、意見交換を行った。

○6月20日の第1回合同部会では、5月30日の第1回会議報告を受けて、2つの部会合同で、教育内容と学校規模・配置適正化に関する内容についても含みこんだ、保護者対象のアンケートの質問項目や、実施の方法などが審議された。そして、会議で出された意見に沿って、最終的な文言の調整を事務局で行い、7月上旬に、保護者アンケートを行う旨が決定された。

○8月27日の第2回合同部会では、宇治市視察（8月7日）でどのようなことが得られ、それぞれどのような印象を持たれたか話し合われた。

次に、保護者アンケートの結果を見て、以下のような意見交換が行われた。

学校規模・配置適正化部会では、1) この回答者の特性というものをどのように受けとめるか？ 2) 学校の適正規模を考える項目について、結局「再編をしてもいい」「してはなかなか難しいだろう」「いや、どちらでもない」ということが、それぞれ3分の1に分かれてしまっていることをどう受けとめるか？ 3) 結局、子どもたちにとって、将来あるべき社会、あるいは子どもたちが過ごすべき社会の中での活躍というものを思考して、改革を考える必要がある。そういったところで、このアンケートを活用していく必要があるのではないか？といった意見が出された。

教育内容検討部会では、それぞれの地域性などもあり、このアンケートの中には本音、頭の中で思っていることと、心で感じているというところに、少し相違があることが確認

されつつも、1)「子どもたちにどのような人になってもらいたいか」「学校教育で力を入れて取り組んでほしいこと」というところを中心に、今後の教育をどのようにしていくかということについて意見交換が行われた。「子どもたちにどのような人になってもらいたいか」に関わっては、「子どもに自信を持たせる」「郷土を愛する心」などの意見が多かった。2)「小中一貫教育について」1割のよくないと言う意見もあるが、これに向けての取組に目を向けていく必要があるという意見が出された。3)五條の子どもたちということを活かして育てていく中で、学級の人数、学級数というものを考えていくにあたり、今までの他の学校の取り組みというものを参考にすることもよいという意見が出された。4)学校だけ、子どもだけではなくて、地域や保護者など全体的に広がっていく取組が望まれるという意見が出された。

○10月6日の第2回 五條市学校適正化検討委員会では、最初に2つの部会から、8月27日の合同部会で話された内容の概要説明があり、その後、保護者アンケートについて、どのようにその結果を受けとめるか、全体で意見交換が行われた。

例えば、「小学校教育で特に力をいれてほしいもの」や、「五條市の子どもたちにどのような人になってもらいたいか」という設問で、共通して『社会性・道徳性・健康・体力・コミュニケーション』といった項目の数値が高かった。これをどう受けとめていくか？ 2)アンケートの結果をまとめると、地域の子育て相談や教育センター機能を学校に期待している。そのため的手段として、幼保小中の連携や、小中一貫教育が可能性としてあげられるのではないか、などが出された。

また、この後、委員長より今回の結果をどのように読み取るかに関する分析意見や、小中一貫教育は現在全国でどのように進められているかに関する情報提供があった。

○10月30日、31日には、参加希望者を中心に、小中一貫教育全国サミット in 姫路への参加が行われ、全国的な取組について情報収集が行われた。

○11月10日の合同部会では、アンケート結果を受けて10月6日の会議で十分に話せなかったことを、ワークをしながらより思いを出す場が設けられた。そして以下のような率直な意見が出された。1)五條市の教育の現状分析が必要ではないか（中学生時にかけ算が未修得の生徒数、低学力の生徒の怠学傾向や問題行動等）、2)統廃合をして学校施設等を縮小し、職員の充実を図る。それによって、一人ひとりに丁寧な保育、教育を提供できるのではないかと？ 3)五條市として教育・保育の一本化ができればと思う。4)小中一貫教育を進めるのであれば、メリット・デメリットを明確にして、最善の方法で進めてほしい。5)子育てしやすい、安心して働き、子どもを育てることができる五條市にしてほしい。6)子どもの人数の不安よりも、やりたい事をやらせてあげられない不安のほうが大きい。7)小中一貫校になったとしても、クラブ活動等に制限ができるのであれば、学校選択制もあってよいと思う。8)小中一貫にするなら市で3つほどにして、お互いを競い合えるように、どの学校にも音楽・運動・文化のクラブを万遍なくすれば、偏ることなく子どもも親も通わせられると思う、などの意見が出された。

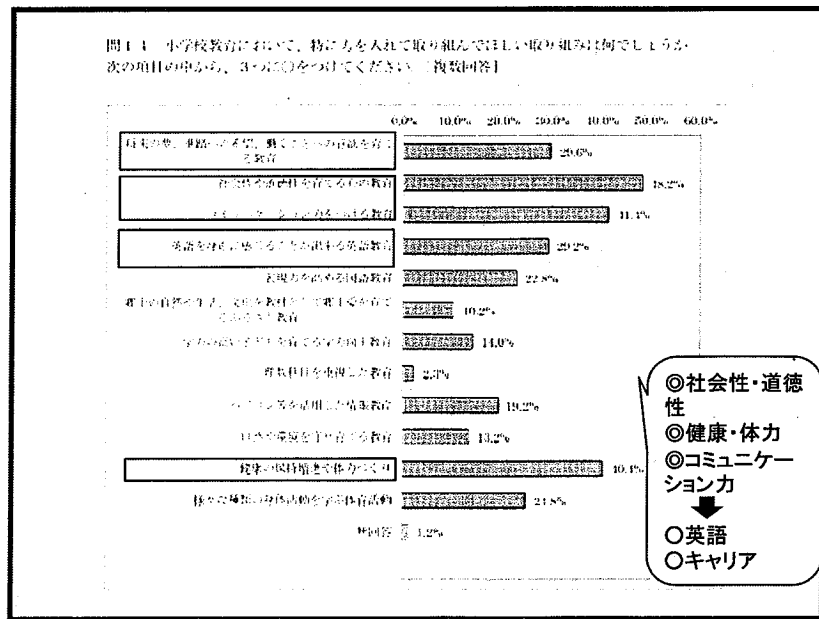
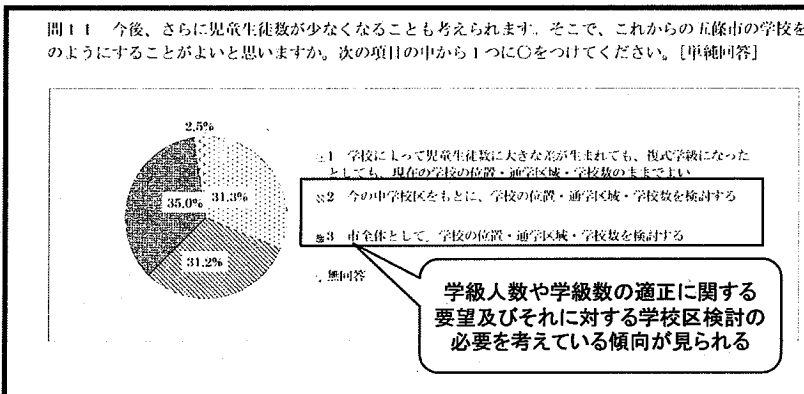
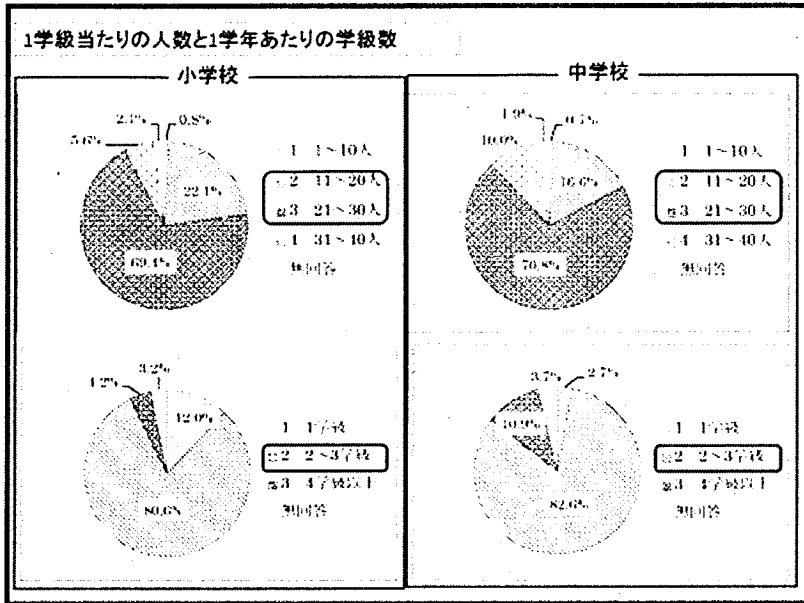
○平成 27 年 1 月 19 日の部会では、11 月の部会での話し合いを再度整理して、部会のまとめを作ることに関わる話し合いが行われた。

学校規模・配置適正化検討部会のまとめとしては、1)五條市の現状の課題について 2)アンケート結果について 3)五條市の将来に対する展望について 4)適正化をどうとらえるか 5)教育改革について(小中一貫教育の推進) 6)その他を柱に、学校規模・配置適正化に関するポイントが話し合われ、整理された。

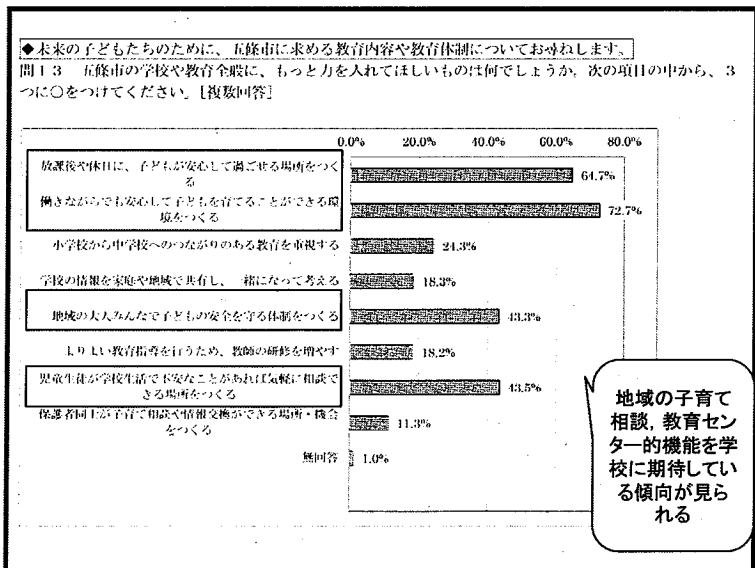
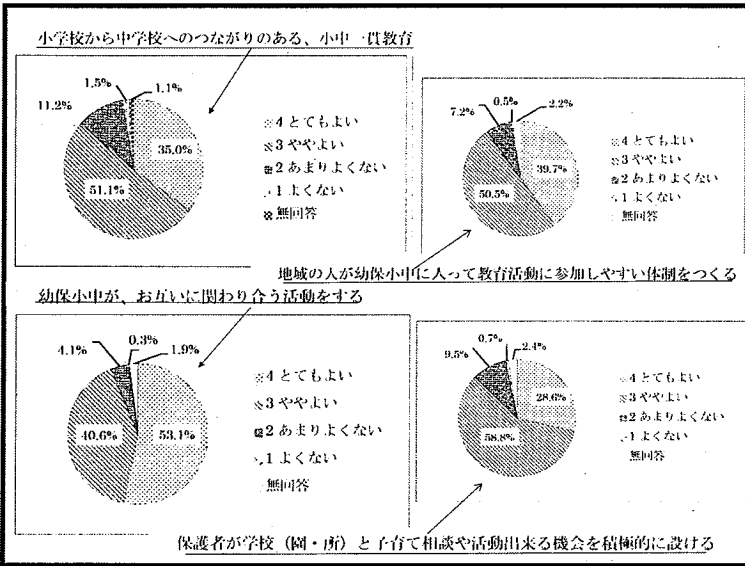
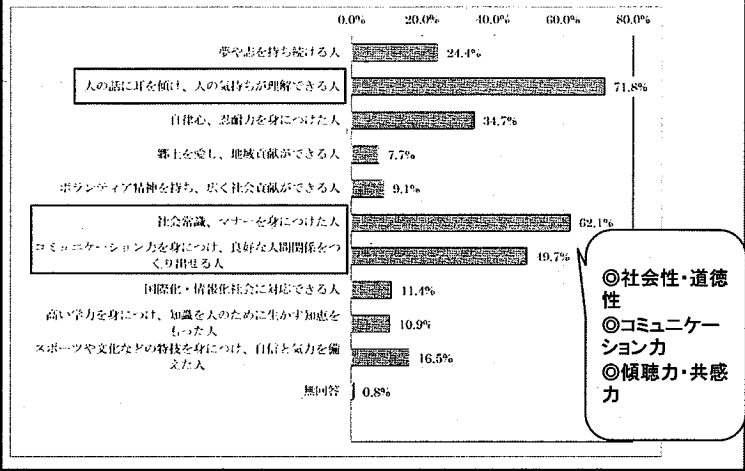
教育内容検討部会のまとめとして、求められる教育(方法)としては、1)挨拶をしっかりとさせる教育 2)勤労意欲を育成する教育 3)自己判断をせず、人の話を素直に聞いて、聞いた上で行動できる教育 4)広い世界を知らせる教育 5)家族に感謝する教育 6)親としっかり話をする教育 7)自分を守る力をつける教育 8)地域一体、市全体で守っていく教育 8)関わることに関する教育(関わることで会話も広がる)、が教育内容として求められるのではないかという意見が出された。また、求められる教育環境としては、1)安心して預けられる、保育所や学童保育所の必要性 2)地域活動が出来る場所(環境づくり、地域とともに作っていく、情報交換ができるような場所) 3)子育て・サポート(情報共有、子育ての相談が出来る機会) 4)通学も含めた、安心・安全な学校 5)教師の高い専門性と資質の確保 6)相談できる関係(個別の対応、相談する側だけではなく、学校側からの事前に色々な情報発信力を含めた内容) 7)積み残しのない教育 8)あたたかい学級づくり 9)選択できる機会(色々な選択できる場を持つことによって、将来的に色々な考えを持つことができる子が育つ)、などが意見として出された。

2. 本審議の中で確認されてきたデータ、及び審議を通じて明らかにされてきたこと

- (1)五條市の学校規模の今後の推移
- (2)学力学習状況調査の結果
- (3)保護者アンケートから明らかにされてきたこと



問18 五條市の子どもたちには、どんな人になってもらいたいですか。次の項目の中から、3つに○をつけてください。【複数回答】



(4)宇治市の視察や他調査などを通じて明らかにされてきたこと

宇治市では人口が増加しており、基本的に小学校の再編は行わない方針で進められていた。現在、小中一貫教育も推進校で進めているが、それを進めていく際には、準備や実際の運用と関わって工夫すべき点があること、などが聞き取り調査から確認された。

主催者発表で、約 4000 人が参加された小中一貫教育全国サミット in 姫路では、全国的な小中一貫教育の動向が把握できた。取組も多様になってきており、①学び・育ち・ひと等と関わって、つながりと協働を核とした実践②確かな学力を基盤とした総合的な人間力の育成を目指した実践③道徳や人権教育を核とし、夢を持ち続け自己実現を図る子どもの育成を目指した実践④健全な自尊心を育むライフスキル教育を核とした実践などを進め、力点や目指す点が異なる小中一貫教育が展開されていることが明らかになった。

その他、最近の動きとして、平成 27 年 1 月 24 日、25 日に開催された奈良市の教育フォーラムで、文科省の担当者より、小中一貫教育の動向についての講演があった。小中一貫教育のこれまでの成果と運用上の課題などが紹介され、小中一貫教育の制度化に関わる答申内容（12 月 22 日に公表された、中央教育審議会「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について（答申）」）についても確認がなされた。

3. 4つの中間答申内容

以上、本検討委員会では 1 年目の審議のまとめとして、以下 4 点を中間答申として提案する。

- (1) 学校の適正規模に関しては、クラス替えのできる学級数が望ましいこと
 - (例)・社会性の伸長が図られる
 - ・競い合いが生まれ、向上心が高まる
 - ・社会性やコミュニケーション能力が高まる
- (2) 五條市への誇り、社会性・道徳性、五條に合った教育内容及び教育方法をより活かした取組が望ましいこと
 - (例)・ふるさと学習など、地域を誇り、故郷を大切にする取組を進める
 - ・自分が住んでいる地域行事に参加する
- (3) 幼保小中など長期間の教育を見通したカリキュラムをもつ教育活動が望ましいこと
 - (例)・幼保連携、幼保一体化等の有効性を活用する
 - ・9年間を通したカリキュラムに基づく教育活動を進める
- (4) 学童保育や地域の子育ての相談も加味した地域連携の教育体制の整備構築が望ましいこと
 - (例)・学童保育の充実を図る
 - ・子育てサークルなど、子育て支援の取組を進める

平成 27 年 2 月 19 日

「五條市学校適正化検討委員会」

山根 初喜 殿